

# 平成15年度厚生労働科学研究

(子ども家庭総合研究事業)

報告書 (第1 / 11)

10030292 主任研究者 山 縣 然太郎

(地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの  
構築に関する研究)

10030293 主任研究者 牛 島 廣 治

(多民族文化社会における母子の健康に関する研究)

厚生労働科学研究  
(子ども家庭総合研究事業)

地域における新しいヘルスケア・コンサルティング  
システムの構築に関する研究

平成15年度研究報告書

平成16年3月

主任研究者 山 縣 然太朗

## 目 次

I. 総括研究報告書	
地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究	7
山縣然太郎、松浦賢長、山中龍宏、近藤直司、中村 敬、谷原真一、 豊嶋英明、玉腰浩司、長瀬博文、中村和彦、武田康久、水谷隆史、 近藤尚己、山田七重、葉袋淳子	
II. 分担研究報告	
1-1. 2003 年度における健やか親子 21 公式ホームページの展開	15
山田七重、葉袋淳子、山縣然太郎 (資料) 健やか親子 21 ホームページパンフレット	
1-2. 2003 年度メーリングリスト運営状況	37
近藤尚己	
1-3. 健やか親子 21 取り組みのデータベースの再構築と研修会報告	42
葉袋淳子、山田七重、近藤尚己、武田康久、山縣然太郎	
1-4. 知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子 21 自由集会報告— テーマ データベースで 母子保健事業をらくらく策定&評価しよう！—	188
山縣然太郎、松浦賢長、中村和彦、水谷隆史、近藤尚己、山田七重、葉袋淳子	
2. 既存公的統計資料の2次的利活用	205
武田康久、山縣然太郎	
3. 乳幼児の誤飲に対する介入研究の結果報告	207
山中龍宏、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎	
4-1. 乳児健診における誤飲チェッカー配布とその利用状況	210
谷原真一	
4-2. 1歳6か月健康診断受診児の事故経験歴に関する調査(続報)	212
谷原真一	
5. 児童・思春期不適應の予防を目的とした母子メンタルヘルス活動のあり方についての研究	217
近藤直司、青木 豊、田中康雄、河西文子、成 順月、北村由美、山縣然太郎	
6. 情報データベースの構築・評価に関する研究—心身障害研究・子ども家庭総合研究報告書データ ベースのインターネット上の公開—	248
中村敬、斎藤進	

7. 3種類のアプローチを用いたヘルスケア・コンサルティングに関する研究～分担班まとめ～	-----257
松浦賢長、山縣然太郎	
＜「クライアントからの相談」アプローチ研究＞	
7-1. 幼稚園養護教諭の同職種内連携確立に関するコンサルティング研究	----- 261
松浦賢長、山縣然太郎	
7-2. 全国国立大学附属幼稚園における保健室及び保健コーナーの設置状況に関する研究	-----265
山口智佳子、小松原かおり、石原知恵、松浦賢長、山縣然太郎	
7-3. 幼稚園における養護教諭の配置状況に関する全国基礎調査	----- 289
山口智佳子、小松原かおり、石原知恵、江崙和子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-4. 幼稚園養護教諭の同職種内連携にむけた保健指導教材の開発に関する研究	----- 294
山口智佳子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-5. 幼稚園養護教諭における同職種内の連携ニーズに関する研究	----- 305
石原知恵、山口智佳子、小松原かおり、江崙和子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-6. 幼稚園養護教諭の連携確立に向けたホームページ運営・利用状況に関する研究	----- 319
石原知恵、山口智佳子、小松原かおり、松浦賢長、山縣然太郎	
7-7. 幼稚園養護教諭と地域保健師の連携モデル開発に関する研究	
～入園後健診と3歳児健診を題材に～	----- 321
山口智佳子、小松原かおり、石原知恵、森川美保子、葉袋淳子、江崙和子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-8. 幼稚園養護教諭における同職種内連携の確立と情報の利活用に関する研究	----- 347
山口智佳子、小松原かおり、石原知恵、江崙和子、松浦賢長、山縣然太郎	
＜「第三者からの紹介」アプローチ研究＞	
7-9. 市町村と大学の対等なパートナーシップのモデル開発に関する研究	
～奈良県下市町と京都教育大学との連携の実際～	----- 350
森川美保子、松田哲子、上中久美子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-10. 市町村現場における保健事業総合計画・母子保健計画および次世代行動計画のとらえかたの検討	----- 354
森川美保子、松田哲子、上中久美子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-11. 育児支援における非理性的環境の重要性に関する研究 ～50歳・60歳代女性住民のグループインタビューと子育て中の母親対象の調査から～	----- 358
森川美保子、松田哲子、上中久美子、白石裕子、山之上哲子、松浦賢長、山縣然太郎	

7-12. 壮年期男性の育児支援者としての潜在的可能性に関する研究 ～ランダムサンプリング調査およびグループインタビューから～	367
森川美保子、松田哲子、上中久美子、樋口善之、松浦賢長、山縣然太郎	
7-13. 幼児期における地域保健と学校保健の連携構築に関する研究 ～学校保健・地域保健合同研修会報告に関する評価～	379
森川美保子、山口智佳子、小松原かおり、石原知恵、葉袋淳子、江崎和子、 松浦賢長、山縣然太郎	
<「クライアントの積極的発掘」アプローチ研究>	
7-14. 第3のアプローチを用いたヘルスケアコンサルティングの展開に関する研究	397
松浦賢長、山縣然太郎	
7-15. 思春期支援を目的とした地域連携構築研修会の展開に関する研究	399
樋口善之、羽入雪子、劔陽子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-16. 地域連携構築研修会の評価に関する研究 —第1回 思春期の子どもたちをサポートする連携づくり—	404
樋口善之、森山浩司、羽入雪子、劔陽子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-17. 地域連携構築研修会の評価に関する研究 —第2回 語ろう！思春期の子どもたちのサポート「情報交換セッションと連携構築」—	418
樋口善之、羽入雪子、松浦賢長、山縣然太郎	
7-18. 教員における性教育の専門性に関する研究 ～小中高校および教員養成大学における性教育の開講状況に関する調査から～	428
松浦賢長、樋口善之、羽入雪子、山縣然太郎	
7-19. 学校性教育をめぐる連携の理論構築に関する基礎的研究 ～性教育学を構築していくための試論の第一歩として～	431
松浦賢長、山縣然太郎	
<連携尺度開発研究>	
7-20. 市町村合併におけるコンサルティングの可能性に関する研究	437
森山浩司、松浦賢長、山縣然太郎	
7-21. 連携を構築するためのコンサルテーションに関する研究 —市町村保健師・保健所保健師間の連携尺度の開発—	440
森山浩司、宮城邦子、銘苺辰美、松浦賢長、山縣然太郎	
7-22. 健やか親子21 & 次世代育成支援研修会の評価に関する研究	448
森山浩司、樋口善之、羽入雪子、葉袋淳子、白石裕子、松浦賢長、山縣然太郎	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表	450

## 地域における新しいヘルスケア・コンサルティングシステムの構築に関する研究

主任研究者 山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座 教授

【研究目的】本研究は、「健やか親子21」に資するため、地域ベースに着目した統合的な推進手法を開発し、一種のヘルスケア・コンサルティングシステムを提言することを最終目的としている。

【研究方法】研究を構成する骨子として、以下の3つのフェーズを提示する。まず第1に情報の集積・評価・活用を一元化したシステムの構築及び試験運用である。第2に、この情報システム等を利用した継続的な地域マーケティング・リサーチであり、今回研究フィールドとする地域集団の背後に存在する特性、課題を把握し、問題に対して地域の保有資源をいかに効率的に運用するかについて多面的に検討する。第3に当該研究フィールドにおける介入研究であり、前段のマーケティング・リサーチから明らかになった地域課題に対して実際に重点的に保健指導、環境整備等の介入をおこない、その効果について定量的、定性的評価を加えて、有効な地域ヘルスケア・プログラムに関するEvidenceを蓄積するものである。

【結果と考察】①「健やか親子21」公式ホームページのリニューアル版の公開 母子保健事業実施の情報収集と供給体制の整備のためにホームページ作成を提案し、「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営している。平成13年5月に公開、平成16年1月にリニューアル版作成。平成16年3月5日現在、約203,000件のアクセスを達成している。さらに、利用度解析により利用者ニーズを抽出し、新しく、「eサポート」と「学校保健」を追加した。後者は地域保健と学校保健との連携を支援するものである。

②2つの母子保健関連データベースの更新と機能強化 ホームページには2つのデータベースを搭載している。一つは母子保健行政の一次資料となる3,229の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、1年間に約400件の情報を追加できた。さらに、各種リンクにより一部内容へアクセスを可能にした。もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子21」の取り組み状況データベースである。取り組みデータベースは全く新しいコンセプトで構築されており、さらに、機能を充実させ、利活用を容易にした新しいシステムに更新し、アクセス数を倍増させた。また、自治体の母子保健担当者の理解を促すこととデータベース情報収集を目的に研修会を開催した。

③2つの介入研究 山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践情報を得るために、小児事故対策の介入研究と、乳幼児健診を利用した母子関係のアセスメントとハイリスク児に対する介入研究を継続した。事故予防については新たに島根県浜田市でも実施を開始した。一定の成果と共に介入効果評価の複雑性が明らかとなった。

④検討会・研修会 「健やか親子21」を推進する当事者と直接意見交換するために、学会を利用して「知ろう、語ろう、考えよう健やか親子21」の自由集会を実施し、地域でのコンサルティングの必要性について地域の事例を検討した。また、取り組みのデータベース研修会と併せて「健やか親子21」を踏まえた母子保健計画見直しの研修会を全国7箇所で開催し、現場の状況を把握した。さらに国立保健医療科学院で研修プログラムを実施した。

【結論】健やか親子21公式ホームページを構築、進化させ、マーケティングリサーチ手法により地域母子保健担当者のニーズを把握した。さらに、取り組みのデータベースを充実させることにより、地域情報の利活用による母子保健事業の評価、展開に関するコンサルティングのあり方を示すことができた。これらに加え、初年度の全国調査、介入研究の成果により、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施と評価をフィードバックするために、Web上（ホームページ上）で利用できる一次情報と地域特性に合わせた情報収集システムを用いたヘルスケア・コンサルティングシステムのプロトタイプを提示した。

参考 「健やか親子21」公式ホームページURL：<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>

## 分担研究者

松浦賢長	福岡県立大学看護学部地域国際看護学講座 教授
山中龍宏	緑園こどもクリニック 院長
近藤直司	山梨県立精神保健福祉センター 所長
中村 敬	日本子ども家庭総合研究所 研究企画・情報 部 部長
谷原真一	島根大学医学部公衆衛生学 助教授

## 研究協力者：

豊嶋英明	名古屋大学大学院公衆衛生学 教授
玉腰浩司	名古屋大学大学院公衆衛生学 講師
長瀬博文	富山県衛生研究所環境保健部 主幹
中村和彦	山梨大学教育人間科学部生涯学習講座 助教 授
武田康久	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ 講座 助教授
水谷隆史	同上 助手
近藤尚己	同上 助手
山田七重	厚生労働科学推進事業リサーチレジデント
葉袋淳子	山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ 講座

## A. 目的

本研究においては、「健やか親子21」に資するため、この国民運動計画実施主体のうち特に地域ベースに着目した統合的な推進手法を開発し、一種のヘルスケア・コンサルティングシステムを提言することを最終目的としている。研究を構成する骨子として、以下の3つのフェーズを提示する。まず第1に情報の集積・評価・活用を一元化したシステムの構築及び試験運用である。第2に、この情報システム等を利用した継続的な地域マーケティング・リサーチであり、今回研究フィールドとする地域集団の背後に存在する特性、課題を把握し、問題に対して地域の保有資源をいかに効率的に運用するかについて多面的に検討する。第3に当該研究フィールドにおける介入研究であり、ここでは、前段のマーケティング・リサーチから明らかになった地域課題に対して実際に重点的に保健指導、環境整備等の介入をおこない、その効果について定量的、定性的評価を加えて、有効な地域ヘルスケア・プログラムに関する知見(Evidence)を蓄積するものである。平成13年度に「健やか親子21」公式ホームページを立ち上げ、

平成16年3月現在、約203,000件のアクセスを達成している。利用度解析により母子保健行政担当者の必要情報を把握している。ホームページには2つのデータベースを搭載した。一つは母子保健行政の一次資料となる母子保健・医療情報データベースであり、もう一つは全国市町村、都道府県等における健やか親子21の取り組み状況データベースである。一方、全国の約3200の市町村と全都道府県、保健所に対して、健やか親子21のベースライン調査を実施すると共に、IT利用状況とコンサルティングの現状を把握した。これがマーケティング情報となる。また、山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践データを得るために、小児の事故対策の介入研究と、乳幼児健診を利用した母子関係の把握と介入に関する研究を開始し、平成14年度にはこれらの継続的な研究に加え、取り組みのデータベースの充実をはかるために全国4箇所で開催してその普及に務めるとともに、このような新たなデータベース構築に関わる現場でのニーズと問題点を集約した。また、小児事故介入について島根県が参加する準備を整えた。3年目はこれらの継続的研究と総括にあたるが、ホームページや研修会による母子保健担当者のニーズ把握において既存データの利活用に関するコンサルティングの要求が高いことが判明し、新たに、国民栄養調査や国民生活基礎調査などの既存データの利活用に関する検討を加えることとした。最終的には、この一連の流れを一般化し、地域レベルにおいて、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施を即応的に行い、その評価をフィードバックするヘルスケアシステム・手法のプロトタイプを提示する。

## B. 方法

### 1. 情報システムの運営・改良と既存データの利活用

#### ① 健やか親子21公式ホームページの再構築

母子保健事業実施の情報収集と供給体制の整備のためにホームページ作成を提案し、「健やか親子21公式ホームページ」を作成、運営している。平成13年5月に公開、平成16年1月にリニューアル版を作成。平成16年3月現在、約203,000件のアクセスを達成している。さらに、利用度解析により

利用者ニーズを抽出し、新しく、「e-サポート」と「学校保健」を追加した。後者は地域保健と学校保健との連携を支援するものである。

## ② 2つの母子保健関連データベースの更新と機能強化

ホームページには2つのデータベースを搭載している。一つは母子保健行政の一次資料となる3,229の疫学調査を中心とした母子保健医療情報データベースであり、1年間に約400件の情報を追加できた。さらに、各種リンクにより一部内容へアクセスを可能にした。もう一つは全国市町村、都道府県等における「健やか親子21」の取り組み状況データベースである。取り組みデータベースは全く新しいコンセプトで構築されており、さらに、機能を充実させ、利活用を容易にした新しいシステムに更新した。また、自治体の母子保健担当者の理解を促すこととデータベース情報収集を目的に研修会を開催した。

## ③ 検討会・研修会の開催

「健やか親子21」を推進する当事者と直接意見交換するために、学会を利用して「知ろう、語ろう、考えよう健やか親子21」の自由集會を実施し、地域でのコンサルティングの必要性について地域の事例を検討した。また、取り組みのデータベース研修会と併せて「健やか親子21」を踏まえた母子保健計画見直しの研修会を全国7箇所で開催し、現場の状況を把握した。

## ④ 既存データの利活用

効果的母子保健施策案及び地域ヘルスケアシステムのスキームを提示するに当たって一つのバックデータとすることを目的に、統計の目的外使用申請によりナショナルデータを得、社会経済因子および世帯関連構成因子等と健康指標の関連について解析を実施し、いかに各種施策のターゲットングを効率的に行うか等について考察する。

## 2. 地域介入研究の中間評価

山梨県の1市、1町においてこれまでの長期調査で把握した状況を踏まえて、実際のコンサルティングに必要な実践情報を得るために、小児事故対策の介入研究と、乳幼児健診を利用した母子関係のアセスメントとハイリスク児に対する介入研究を継続した。事故予防については新たに島根県浜田市でも実施を開始した。主に、保護者の行動変容率の推移を中心に1年後の中間評価を調査票を用いて実施した。

## 3. ヘルスケアコンサルティングシステムの構築 最終年としてこれらを統合し、新しいヘルスケアコンサルティングシステムの構築をめざす。

## C. 結果及び考察

### 1-1. 2003年度における健やか親子21公式ホームページの展開（山田七重、葉袋淳子、山縣然太郎）

本研究の一環として、2001年度より構築・運営してきた健やか親子21公式ホームページの2003年度の展開について、主に12月末に行ったホームページリニューアルを中心に報告することを目的とした。リニューアルのコンセプトは①コンテンツの構造の単純化、②印刷用ファイルの追加、③活用例の提示、④新コンテンツの追加、⑤取り組みのデータベースのリニューアル公開等であり、より使いやすいホームページを目指した。

特に、取り組みのデータベースは、データの量質及びシステムの使いやすさ等の見直しが行われ、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが確立された。また、研究班が独自に作成したコンテンツである母子保健・医療情報データベースでは約400件のデータが追加され、他の各コンテンツも随時充実化が図られていた。

ホームページが着実に利用されてきているものの、アクセス数は2002年に比べて、2003年は平均して減少した。しかし、リニューアル以来、再びアクセス数は増えており、累積アクセス数が20万件を超えた（203,300件）。

主要ページへのアクセス数では、「母子保健・医療情報データベース」、「健やか親子21とは」、「最新情報&掲示板」、「取り組みの目標」の順に多かった。

「取り組みのデータベース」は10月の全面改訂後、アクセス数が約2倍に増加した。2つのデータベースが、利用者にとって、必要度の高いものであることが示された。

取り組みの目標のベースラインの独自に作成したエクセルファイルが累計で27,000件以上ダウンロードされており、利用者に活用されていることがわかった。

### 1-2. 2003年度メーリングリスト運営状況（近藤尚己）



全国の母子保健関係者が日常業務について、相互に情報提供、意見交換を行える「場」を提供することを目的として、2003年2月より母子保健関係者を対象とした「すこやかメーリングリスト」を運営している。2004年2月末現在で加入者数は139名で、職種としては保健師が最も多く、ついで、医師である。養護教諭や理学療法士なども加わり、多様化してきている。投稿数は2003年11月ころより、一定して月数10通となり、次第に増加している。参加者どうしの相互コンサルテーションや、管理者からの時事的な情報提供、それをもとにしたメールでの意見交換、健やか親子21ホームページ運営のための意見収集などに使用されている。次第に投稿数、内容ともに充実してきているが、投稿者が限定されていること、加入者がまだ十分でないことなどの課題があり、今後も継続してこれら課題克服のために努力していく。

### 1-3. 健やか親子21取り組みのデータベースの再構築と研修会報告（葉袋淳子、山田七重、近藤尚己、武田康久、山縣然太郎）

本研究の一環として、2001年度より構築・運営してきた健やか親子21公式ホームページに掲載している「取り組みのデータベース」は、「地域に合致した情報（地域特性を考慮した情報）の利活用」を目指したものである。これは、研究班において独自に開発したもので、実際に利用する人々が利活用していくものとして構築したが、公開後1年間の経過の中で、運営側以外から入力されたデータは極めて少ない状況であった。この理由として、①データベースの重要性の普及が足りないこと、②情報を提供することの意味合いの理解が得られていないこと、③入力方法がわからないというオペレーティングの問題の3点が大きな課題として推測された。これらを改良するための方法を検討し実践してきた。まず、導入部分において、①取り組みのデータベースの精度向上を図る目的での、リニューアル、②各自治体母子保健関係者へ直接はたらきかけ、データベースの重要性、及び、必要性を周知してもらう目的での、全国各地域において研修会を開催した。次に、データベース管理側の体制において、①提供された情報を迅速に処理しWeb公開、②情報内容の充実を図る目的で、項目ごとに適切な内容であるかの確認、③利用者側からの使用に関しての問題発生時

の対応、④データベース利用度の把握を行った。

以上により、取り組みのデータベースは、操作性の向上と啓発の活動によって、データの量質及びシステムの使いやすさの向上が図られ、2970件の情報を搭載し、利活用が充実しつつある段階に至っているといえる。各地域の母子保健担当者に「取り組みのデータベース」が浸透されつつある今、今後の発展に注目したい。

### 1-4. 知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21自由集会報告—テーマ データベースで母子保健事業をらくらく策定&評価しよう—（山縣然太郎、松浦賢長、中村和彦、水谷隆史、近藤尚己、山田七重、葉袋淳子）

第61回日本公衆衛生学会総会の自由集会にて、一昨年・昨年に引き続き「知ろう・語ろう・考えよう！健やか親子21 その3」を開催した。この集会の目的は、健やか親子21ホームページの主要なコンテンツの一つである「健やか親子21に関する取り組みのデータベース」を、どのように母子保健事業の策定や評価へと活用していくかということについて、検討することであった。参加者数は28名と昨年より少なかったが、絞られた論点の中で、参加者から現場での課題等に基づいた切実な声が多数あげられた。またグループワークを中心に、充実したディスカッションが持たれ、現場に役立つデータベースのあり方について十分に検討できた自由集会となった。

### 2. 既存公的統計資料の2次的利活用（武田康久、山縣然太郎）

平成13年度からの本研究において課題となっていた信頼性の高い既存ナショナルデータの利活用について、その方法論の標準化を含めて検討した。国民生活基礎調査及び国民栄養調査の調査票を用い、各種健康指標と社会・経済因子との関連を把握することにより、各地域特性に応じた健康増進システムの構築に関する研究および効果的健康関連施策の立案に資するための基礎資料を得ることを目的として総務省に対して両調査の目的外使用申請を行った。今回の申請で上記資料を得ることにより、より広範かつ多面的な健康関連指標の新たな評価が可能となり、本研究結果は、今後の行政施策策定上重要な基礎資料となると共に、全国および地域ベースにおける健康増進事業に関

する行政支援・研究・教育活動に資するものと期待される。昭和61年から平成13年まで3年ごと15年以上にわたる長期間のデータを取得し、延べ客体数として430万人余りからなる個人単位のデータセットを構築し、各種解析に供する準備を整えた。

### 3. 乳幼児の誤飲に対する介入研究の結果報告 (山中龍宏、水谷隆史、近藤尚己、山縣然太郎)

山梨県塩山市のフィールドを用いて、平成13年9月より誤飲チェッカーおよび集団指導を用いた乳幼児誤飲防止プログラムによる介入研究を行った。介入開始後2年以上経過し、介入当初から約1年分の対象児が1歳6か月健診による評価の終了時点に達した。この対象児を元に3年度分の結果の解析を行った。

対象は平成13年9月から14年6月の間に3か月健診を受診して、平成15年1月から10月に1歳6か月健診を受診した児163名とした。誤飲チェッカーの利用の有無別の誤飲事故による医療機関受診件数の比較と、介入研究開始前後の誤飲事故による医療機関受診率の変化を評価した。

7か月健診時の使用状況調査では、90名(55%)が誤飲チェッカーを利用したと回答していた。誤飲チェッカー利用の有無別では、利用群では誤飲が6例(利用群の6.7%)発生し、非利用群では0例であり、利用による事故予防効果を認めなかった。介入開始前後の医療機関受診率は、介入前が2.9%に対して、介入後は4.4%と、介入により医療機関受診率は上昇していた。しかし、誤飲疑いの症例を除いて検討すると、介入前が2.3%に対して介入後は1.6%と減少していた。これらの結果から、介入により誤飲事故に対して保護者が敏感になる結果として、医療機関受診が増加したことから、実際の誤飲事故は減少した可能性があることが考えられた。

#### 4-1. 乳児健診における誤飲チェッカー配布とその利用状況(谷原真一)

【目的】誤飲事故の発生予防を目的として、4か月児の健診に実施した事故予防教育において配布した誤飲チェッカーの使用状況を把握すること。

【方法】市内の小児科を標榜する医療機関の協力を得て、医療機関委託形式の健診(おおむね10か月児が対象)において、受診児の保護者に誤飲

チェッカーの使用状況などに関する匿名の調査票を配布した。【結果】平成15年10月から平成16年2月の間に16通の回答が得られた。誤飲チェッカーについては、9人が「使用経験あり」7人が「使用経験なし」と回答した。使用しなかった理由でもっとも多かったのは「気をつけているから大丈夫」であった。1m以上の高さに置き換えるなどの対策を講じた物では「おもちゃ」がもっとも多かった。【考察およびまとめ】誤飲チェッカー配布による事故予防教育の効果の一部が示唆された。医療機関委託形式の健診の受診率向上を含め、事故予防対策の指導方法や誤飲チェッカー使用状況の調査方法を再構築した上で、子供の事故予防に有効なシステムを構築することが重要である。

#### 4-2. 1歳6か月健康診断受診児の事故経験歴に関する調査(谷原真一)

【目的】医療機関を受診しないような事例まで含めた乳幼児における事故の発生頻度を明らかにする。【方法】平成15年4月から12月の1歳6か月児健康診査の対象児を調査対象とし、事故経験の有無、経験回数、発生後の対応などに関する調査票を、健診会場にて調査への同意の有無と記載内容を確認の上で回収した。【結果】281名より調査票が回収できた。事故全体で見た場合、何らかの事故を少なくとも1度は経験した者は221人(78.6%)であり、166人(59.0%)は2度以上経験していた。事故により医療機関を受診した経験のあるものは39人(13.9%)であり、5人(1.8%)は複数回受診していた。【考察】今回の調査では、昨年度に本研究班が実施した調査と比較して、主な結果はほぼ同様であった。1歳6か月健診の受診率を考慮すれば、地域における乳幼児の状況をほぼ正確に反映していると考えられる。【まとめ】小児の事故経験歴を系統的に収集している地域は限られている。情報収集を継続することで、小児の事故予防対策とその評価に関するシステムを構築することが可能になると考えられる。

### 5. 児童・思春期不適応の予防を目的とした母子メンタルヘルス活動のあり方についての研究(近藤直司、青木豊、田中康雄、河西文子、成 順月、北村由美、山縣然太郎)

本研究は、不登校や社会的ひきこもり、暴力、

非行など、児童・思春期における不適応問題の予防対策と実際の介入の方法論について検討することを目的とした。将来の精神病理学的リスクと考えられる問題に対する早期支援として、①母子の関係性、とくに適切な母子の相互交流を促進するための早期支援、②養育者のメンタルヘルス上の問題、とくに抑うつ状態を示す母親への早期支援、③子どもの心理・社会的発達上の問題、とくに軽度発達障害をもつ子どもと親への早期支援、という三つの観点から介入の実際について検討した。

中間結果として、4か月時の「母親のうつ状態」、「母子関係」は、2歳児の「問題行動（CBCL）」と関連があった。しかし、家庭訪問などの介入効果を明らかにすることができなかった。これは、介入の方法に問題があったと考えられた。すなわち、親子関係に問題のある親とそうでない親とでの指導方法が異なっていたことである。この研究は3歳児まで追跡予定であり、さらに、検討を重ねていく予定である。また、母子関係を測定する方法（Free Play）についてビデオを作製した。乳幼児健診の場を利用した親子関係の評価法を検討する際の資料となることが期待される。

#### 6. 情報データベースの構築・評価に関する研究—心身障害研究・子ども家庭総合研究報告書データベースのインターネット上の公開—（中村敬、斉藤進）

心身障害研究および子ども家庭総合研究事業における報告書のデータベース化は、かつて、報告書から直接イメージスキャナで取り込み、PDF版画像ファイルに変換し、1975～1999年までの報告書データベースとして、CD版で提供していた。その後、Webでの公開が望まれ、現在、昭和50年度～平成13年版度までの全文報告書データベースとして、日本子ども家庭総合研究所ホームページ上で公開している。今後も継続的に毎年の研究報告書を提供できる体制を整えている。利用は、会員登録（費用は不要）の後、発行されたIDとパスワードを用いて、ログインして自由に検索、ダウンロードして用いることができる。今年度は、このデータベースの紹介を中心に3年間の経過を交えて報告する。

#### 7. 3種類のアプローチを用いたヘルスケア・コンサルティングに関する研究（松浦賢長、山

縣然太郎）

本研究では、「第三者からの紹介」「クライアントからの相談」「クライアントの積極的発掘」という3つのアプローチによるコンサルティングの実行可能性に関する研究を行った。

この結果、地域におけるヘルスケア・コンサルティングに携わる場合、われわれに求められる専門的知識が対象者（対象集団）において活かされるためには、そこに有機的な連携（すなわち受け皿）が必要となることがわかった。

そこで、行政保健師間の連携をみる尺度を開発する研究も行った。

それぞれの研究において、市町村と大学の対等なパートナーシップの構築や、コンサルティング継続、学校保健と地域保健との連携、同じ職種における連携等に必要な「〇箇条」という簡潔な抽象化をすることができた。さらに、それぞれにおけるコンサルティング介入が、健やか親子21の趣旨にみあった成果を生み出した。今後は、本研究で得られた成果を現場に還元していくことが求められていると考える。

#### 8. 地域におけるヘルスケア・コンサルティングシステムのプロトタイプの提示（山縣然太郎）

図のようにWeb上で一次情報及び地域特性に合わせた情報収集を可能にし、これを活用してヘルスケア・コンサルティングシステムを提案する。

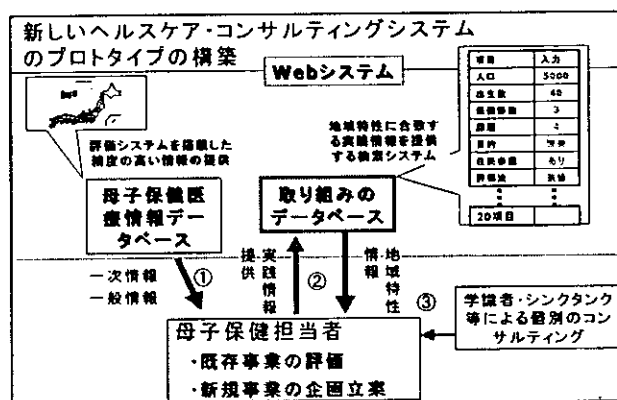


図 新しいヘルスケア・コンサルティングシステムのプロトタイプ

#### D. 結論

健やか親子21公式ホームページを構築、進化させ、マーケティングリサーチ手法により地域母子保健担当者のニーズを把握した。さらに、取り組

みのデータベースを充実させることにより、地域情報の利活用による母子保健事業の評価、展開に関するコンサルティングのあり方を示すことができた。これらに加え、初年度の全国調査、介入研究の成果により、保健課題に対する現状把握と対策の立案、実施と評価をフィードバックするヘルスケアコンサルティングシステムのプロトタイプを提示した。

## E. 研究成果

### <著書>

1. 山縣然太郎. 健やか親子21における「子どもの事故予防」の取り組み. 乳幼児の事故予防 乳幼児の事故死を予防するために. 3-16. 社団法人 日本家族計画協会. 2003

### <雑誌>

1. 山縣然太郎. 子どもの心の健康と生活習慣. 子どもと発育発達. 1 (6). 368-372. 2004
2. 山縣然太郎. 塩山プロジェクトと小児事故防止の取り組み 小児事故予防に向けた地域介入プログラム. 家族と健康. 591. 6-7. 2003
3. Takeda, Y. et al.. Multigenerational Family Structure in Japanese Society: Impacts on Stress and Health Behaviors among Women & Men.. *Social Science & Medicine..* (in press). 2004
4. Takeda, Y. et al.. Gender Differences in the Impact of Multiple Role Occupancy on Health-related Behaviors in Japan.. *Journal of Health and Social Behavior..* (in press). 2004
5. 中村 敬. 第50回小児保健学会シンポジウムⅠ、「育児支援ネットワークの構築に向けて」～育児不安軽減に向けた取り組み～. *小児保健研究*. 63(2). (印刷中). 2004
6. 中村 敬. 出生体重の年次推移について一新生児の出生体重が低下している一. *母子保健情報*. 48. 96-103. 2003

### <報告書>

1. 山縣然太郎. 「健やか親子21」と地域の取り組み平成15年度 母子保健専門指導員研修会〈第2週・母子保健サービス〉. 東京(恩賜財団母子愛育会). 2003. 232-241

### <学会発表>

1. 葉袋淳子, 武田康久, 山田七重, 水谷隆史, 近藤尚己, 松浦賢長, 玉腰浩司, 長瀬博文, 山中龍宏, 中村和彦, 山縣然太郎. 健やか親子21公式ホームページの運営および利用状況. 第49回日本小児保健学会講演集. 一. 242-243. 2003
2. 森山浩司, 伊藤真由, 松浦賢長, 山中龍宏, 玉腰浩司, 長瀬博文, 中村和彦, 葉袋淳子, 山田七重, 近藤尚己, 水谷隆史, 武田康久, 山縣然太郎. 小児保健・医療分野における事業展開に関する研究—健やか親子21の取り組みに関する全国調査—. 第49回日本小児保健学会講演集. 一. 670-671. 2003
3. 山田七重, 葉袋淳子, 武田康久, 水谷隆史, 近藤尚己, 松浦賢長, 中村敬, 玉腰浩司, 長瀬博文, 山中龍宏, 近藤直司, 中村和彦, 大森智美, 山縣然太郎. 健やか親子21公式ホームページのアクセス状況に関する研究(第2報). *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 656. 2003
4. 成順月, 近藤直司, 河西文子, 青木豊, 北村由美, 武田康久, 水谷隆史, 近藤尚己. 乳児を持つ母親における気分障害の関連要因. *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 644. 2003
5. 森山浩司, 石井敦子, 伊藤真由, 松浦賢長, 山中龍宏, 玉腰浩司, 長瀬博文, 中村和彦, 葉袋淳子, 山田七重, 近藤尚己, 水谷隆史, 武田康久, 山縣然太郎. 母子担当保健師の相談機関への連携に関する研究～健やか親子21取り組み全国調査～. *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 655. 2003
6. 伊藤真由, 森山浩司, 石井敦子, 松浦賢長, 山中龍宏, 玉腰浩司, 長瀬博文, 中村和彦, 葉袋淳子, 山田七重, 近藤尚己, 水谷隆史, 武田康久, 山縣然太郎. 母子保健領域での助産師の活動状況—健やか親子21の取り組みに関する全国調査—. *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 656. 2003
7. 風間真理, 水谷隆史, 武田康久, 近藤尚己, 山中龍宏, 山縣然太郎. 行政を主体とした幼児事故サーベイランスの現状—塩山市母子保健長期縦断研究から—. *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 619. 2003
8. 久保裕義, 水谷隆史, 武田康久, 近藤尚己, 石原融, 山中龍宏, 山縣然太郎. 事故による病院受診に影響を与える生活環境—塩山市母子保健長期縦断研究から—. *日本公衆衛生雑誌*. 50(10). 619. 2003
9. 鈴木ゆみ, 水谷隆史, 山中龍宏, 井上愛子, 近藤尚己, 山田七重, 武田康久, 山縣然太郎.

チャイルドシート着用の法制化後の現状から一塩山市母子保健長期縦断研究から一. 日本公衆衛生雑誌. 50(10). 620. 2003

10. 薬袋淳子, 山田七重, 近藤尚己, 水谷隆史, 武田康久, 山縣然太郎, 松浦賢長, 玉腰浩司, 長瀬博文, 山中龍宏, 中村和彦. 健やか親子21公式ホームページ「取り組みのデータベース」の運営および利用状況. やまなし小児保健. (in press). 2004
11. 山田七重, 松浦賢長, 中村和彦, 山縣然太郎. 健やか親子21公式ホームページの現状－学校保健と地域保健の連携のための活用－. 学校保健研究. 45sup. 502-503. 2003
12. 松浦賢長, 樋口善之, 伊藤真由, 大森智美, 三國和美, 玉腰浩司. 健やか親子21公式ホームページへのアクセス状況に関する研究. 母性衛生. 44(3). 213. 2003
13. 松浦賢長. 日本人は、いつどんな性教育を望んでいるのか. 母性衛生. 44(3). 80-81. 2003

#### <ホームページ関連>

1. 山縣然太郎. 「母子保健・医療情報データベース」運用. <http://rhino.yamanashi-med.ac.jp>. 2001
2. 山縣然太郎. 「健やか親子21ホームページ」運用 (2003年12月末にリニューアル). <http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>. 2001(2004)
3. 山縣然太郎. 「健やか親子21取り組みのデータベース」運用 (2003年10月1日からリニューアル公開). <http://rhino2.yamanashi-med.ac.jp/torikumi-doc/>. 2001(2003)
4. 山縣然太郎. 健やか親子21取り組みのデータベースマニュアル. <http://rhino2.yamanashi-med.ac.jp/torikumi-doc/help.pdf>. 2001(2003)
5. 山縣然太郎. 健やか親子21公式ホームページ (パンフレット). (作成中). 2004
6. 中村 敬. 日本子ども家庭総合研究所ホームページ【新データベース検索】日本子ども家庭総合研究所紀要, 子ども家庭総合研究報告書. <http://www.aiiku.or.jp/>. 2003
7. 中村 敬. 小児科医からみた子育て不安への対応－育児相談の実践を通して－ (愛育ねっと解説コーナー). <http://www.aiiku.or.jp/>. 2003

#### <学会イベント参加>

1. 第62回日本公衆衛生学会. 自由集会 知ろう・語ろう・考えよう 健やか親子21 その3 ーデータベースで母子保健事業をらくらく策定&評価しよう!ー. 2003年10月22日(水)18:00~20:00. 京都
2. 第62回日本公衆衛生学会. 紹介ブース 健やか親子21公式ホームページの活用. 2003年10月22-24日. 京都

#### <研修会>

1. 福岡県田川市 地域連携構築研修会第2回: 語ろう思春期の子どもたちのサポート~情報交換セッションと連携構築~. 2004年2月23日 (13:30~16:00). 福岡県田川市
2. 日本理学療法士協会 第6回母子保健福祉研修会: 健やか親子21公式ホームページ 母子保健・医療情報データベース&取り組みのデータベースを使いこなそう!. 2004年2月22日(全日). 東京都渋谷区
3. 母子保健研修会 in 北海道: 効果的な事業の企画: 地域行動計画策定のポイント. 2004年2月21日(全日). 北海道帯広市
4. 栃木県母子保健福祉担当者研修会: 市町村母子保健計画に活かす健やか親子21&次世代育成支援. 2004年2月16日(全日). 栃木県片柳町
5. 福岡県田川市 地域連携構築研修会第1回: 思春期の子どもたちをサポートする連携づくり. 2004年2月2日(13:30-16:15). 福岡県田川市
6. 奈良県学校保健・地域保健担当者研修会: 「地域保健と幼稚園教育の連携にむけて」 3歳児健診と幼稚園の健康診断 . 2004年1月31日 (13:30-16:00). 奈良県橿原市
7. 福岡県福岡市健やか親子21&次世代育成支援研修会: 市町村の保健計画に活かす健やか親子21&次世代育成支援プログラム. 2004年1月26日 (13:00-16:00). 福岡県福岡市
8. 青森県 母子保健研修会: 性教育・地域と学校の連携を上手にはかろう. 2003年12月8日(全日). 青森県青森市
9. 愛知県母子保健データベース研修会: 母子保健事業(計画)のscrap and build はいかに行うべきか?. 2003年12月1日(全日). 愛知県名古屋市
10. 国立保健医療科学院 研修会: 健やか親子21と小児の事故予防対策, 「健やか親子21」ホームページの活用. 2003年9月17日.
11. 国立保健医療科学院 研修会: 「健やか親子21」ホームページの活用. 2003年6月16日.

## 2003年度における健やか親子21公式ホームページの展開

山田 七重 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座  
葉袋 淳子 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座  
山縣然太郎 山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学Ⅱ講座

本研究の一環として、2001年度より構築・運営してきた健やか親子21公式ホームページの2003年度の展開について、主に12月末に行ったホームページリニューアルを中心に報告することを目的とした。リニューアルのコンセプトは①コンテンツの構造の単純化、②印刷用ファイルの追加、③活用例の提示、④新コンテンツの追加、⑤取り組みのデータベースのリニューアル公開等であり、より使いやすいホームページを目指した。

特に、取り組みのデータベースは、データの量質及びシステムの使いやすさ等の見直しが行われ、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが確立された。また、研究班が独自に作成したコンテンツである母子保健・医療情報データベースでは約400件のデータが追加され、他の各コンテンツも随時充実化が図られていた。

トップページへのアクセス数は、2003年は凹型であったが、ホームページのリニューアルをきっかけに、ほぼ全てのコンテンツにおいて増加傾向が示された。リニューアル後に利用度の高かったコンテンツは、母子保健・医療情報データベース、健やか親子21について、取り組みの目標値、イベントと研修会情報の順であった。また、ホームページへの情報提供も主要なものだけで59回あり、特にリンク依頼やイベント開催について多くの情報が寄せられていた。

以上により、ホームページリニューアルをきっかけとして、より活発にホームページが利用されてきていることが示された。尚、これは、ホームページリニューアルから2か月時点での報告であり、この3月に全国へ向けての周知をはかることや、新コンテンツが開かれること等大きなイベントを控えているため、今後の展開に注目して行きたい。

### I. 研究の目的

本研究班では、健やか親子21の推進を目指した、母子保健サービス実施の情報収集と供給体制の整備のために、健やか親子21公式ホームページを構築、運営している。2001年5月に公開、2004年2月末日現在、約20万件のアクセスを達成している。

2003年度の大きな展開として、12月末日に、健やか親子21ホームページのリニューアルが行われたことがあげられる。これは、それまでの約2年半の運営によって、コンテンツが膨大化・複雑化してきたため、より利用者にとって使いやすく、わかりやすい構成とするために、行われたものである。

その他の大きなイベントとして、研究班独自のデータベースである「取り組みのデータベース」が10月1日にリニューアル公開されたことがあげられるが、これについては別に報告する。

本研究では、健やか親子21ホームページの2003年度の展開について、ホームページのリニューア

ルを核とした運営・利用状況について報告することを目的とする。

尚、2002年度までの運営状況については、昨年の報告書の「2002年度における健やか親子21ホームページ運営・利用状況」に報告した。

### II. 研究の方法

健やか親子21公式ホームページ (<http://rhino.yamanashi-med.ac.jp/sukoyaka/>) を2001年5月に公開し、山梨大学医学部保健学Ⅱ講座にて、日々コンテンツの充実やタイムリーな情報発信を目指して運営している。このホームページの運営・利用状況を、以下の方法で把握した。

#### 1. ホームページの運営状況の把握方法

ホームページ管理担当者が更新の機会毎に、ホームページ内の更新履歴のページに日付及び内容を記録している。独自に構築した2つのデータベース（母子保健行政の一次資料となる全国を対象とした疫学調査について検索できる「母子保

健・医療情報データベース」、全国市町村・都道府県等における健やか親子21に関する「取り組みのデータベース」)については、それぞれの主たる管理者がデータ数等の記録・管理を行っている。これらの記録により、ホームページの運営状況について把握した。

## 2. ホームページの利用状況の把握方法

利用状況を把握するための指標として、アクセス数を把握するためのシステムを整備している。

このシステムでは、サーバ上で稼働しているプログラムが、常時アクセス状況を記録する。記録内容はコンテンツ及び日時毎のアクセス数である。これらの記録を元に集計するプログラムを定期的に稼働させ、集計結果をサーバ内の一般から閲覧できる場所に保存している。毎月1日には、前月のアクセス数が集計されることになっている。本来であれば、これらのシステムによって、アクセス元のURLが記録され、どこからのアクセスが多いのか、ということの把握も可能となるが、このホームページのサーバは山梨大学医学部のサーバの中に置いてあるため、山梨大学医学部へのアクセスと混同しており、把握は現段階では非常に困難である。

上記のシステムにより、現段階においては、2001年10月以降の各コンテンツへのアクセス数を正確に把握している。2002年度には、これらの記録を効率的に処理する方法論を考案した。現在2004年2月までのアクセス数を把握・処理している。これらの方法により、コンテンツ毎のホームページの利用状況を把握した。

## III. 結果及び考察

### 1. 健やか親子21ホームページのリニューアル

ホームページリニューアルの目的は、利用者にとってわかりやすく、使いやすいものとするところであった。詳細なコンセプトは下記の通りである。

#### ①コンテンツの構造の単純化

細分化していたコンテンツを、使いやすさという観点からまとめ、さらに、できるだけ階層の深化を避けた。この結果、従来のホームページでは、トップページから行けるコンテンツが約20個であったことに対して、リニューアル後は12個にまとめられた(図1参照)。

最も大きな変化としては、それまで、取り組み

のデータベースとして「取り組み状況」と「取り組みのデータベース」の2つのコンテンツを置いていたものを、それぞれ独立したコンテンツとしてまとめたことである。また「取り組み状況」では健やか親子21に関連する各地域の母子保健計画等をPDFファイル等で掲載していたが、よりわかりやすく「地方計画」と名称を変更した。

また、サイトマップを追加し、全コンテンツの構成が把握出来るようにした。これに伴い、ホームページのトップ画面のデザインも変更した。

#### ②印刷用ファイルの追加

「健やか親子21について」というページは、従来1ページにおさまるように印刷が出来ない状態であった。これは、健やか親子21の概要をわかりやすく示したものであるため、印刷のニーズが高いと考え、一枚で印刷出来るように印刷用のファイル(PDFファイル)を置いた。

この他、「取り組みの目標値」等、利用者にとって印刷へのニーズが高いと考えられるものについて、同様に、印刷用のファイルを作成し、ダウンロード出来るようにした。

#### ③活用例の提示

「取り組みの目標値」については、従来、ベースラインの図表をxlsファイルでダウンロードできるよう工夫していたが、このxlsファイルの活用例を置き、より効果的にxlsファイルを使いこなしてもらえるように工夫した。

#### ④新コンテンツの追加

これまでに「作成中」となっていたコンテンツを再度見直し、「e-サポート」及び「学校保健」として、メインコンテンツとして追加した。「e-サポート」は、住民がホームページを直接利用することを目指したものであり、母親・父親が事故予防等について楽しく学べるような「e-ラーニング」と、各地域での子育て支援団体の情報が得られる「子育てリンク」の2つのサブコンテンツがある。「学校保健」は、全国の小・中・高校生の健康実態に関するデータを紹介する「学校保健統計」を中心として、地域保健と学校保健の連携のきっかけづくりに利用してもらうことを目的としたコンテンツである。いずれも現在作成の最終段階にあり、年度内に公開の予定である。

#### ⑤取り組みのデータベースのリニューアル公開

昨年度より、全国各地での研修会で、現場の方々の声を吸い上げながら、取り組みのデータ

ベースの内容の充実化と、より使いやすいシステムの構築を目指して、データベースの改良に取り組んだ。従来の項目の見直しを行い、より充実した項目を設定し、2003年7月の厚生労働省の通達により、全国の自治体からの情報提供を受け、これらのデータをリニューアルしたシステムに載せて、10月1日からリニューアル公開した（詳細は別に報告した）。

尚、これらのリニューアルについての周知と、より多くの方々にホームページを活用してもらうことを目指して、ホームページ紹介用のパンフレットを作成し、2004年3月に全国の市町村の母子保健担当者に配布する予定である（このパンフレットを資料として巻末に添付した）。

## 2. 健やか親子21ホームページの運営状況

図2に月別の更新回数を示した。リニューアルの結果、ホームページの更新作業にかかる手間が少なくなったため、更新が頻繁に行われるようになった。

更新の頻繁化の一つの指標として、図3に母子保健研修会実施日から、その報告書をホームページに掲載するまでの日数を示した。母子保健研修会は、全国各地の母子保健担当者を対象として、健やか親子21や取り組みのデータベースの普及を目的として、研究班が開催しているものである（詳細は別に報告した）。実施後、これについて研究班によって報告書を毎回作成し、ホームページに掲載している。これまでに11回の研修会を行っているが、2004年1月以降は、掲載までの日数が明らかに短くなっており、よりリアルタイムな対応ができるようになってきたことがわかる。

表1にはコンテンツ別の更新回数を示した。2003年3月以降の一年間に行われた更新は、主な更新だけで61回であった（母子保健・医療情報データベースの更新回数を除く）。特に、母子保健研修会に関する周知や報告書の掲載、他の健やか親子21関連機関からのイベント情報の掲載等についての更新が頻繁に行われていた。

表2に独自のコンテンツの運営概況を示した。独自コンテンツとは、健やか親子21の既存資料以外に、研究班で独自の視点から作成したコンテンツを示し、取り組みの目標値、取り組みのデータベース、地方計画（旧取り組み状況）、母子保健・医療情報データベースがこれにあたる。取り

組みの目標値では、一覧や図表の活用例の追加、取り組みのデータベースでは、システム及びデータの見直し等、いずれのコンテンツにおいても、この一年間で、コンテンツの改善がなされていた。

特に、取り組みのデータベースは、利用者である全国の各地域の母子保健担当者によって、随時、登録・修正等が行われている。運営を開始した2002年3月以降、運営側以外から入力されたデータは、10数件と極めて少ない状況であったが、リニューアル公開後は、運営側以外からの登録・修正件数は、5か月間で766件となっており、情報更新が飛躍的に活発になっていた。本来の目的であった、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが、今回のリニューアル公開にて、確立されたと言える。

図4には、独自コンテンツの一つである、母子保健・医療情報データベースの運営状況を示した。5-9月を中心として、ほぼ全ての月に渡って、データの更新作業が行われ、一年間で400件のデータが追加され、2003年2月末には2831件であったデータ数は、現在では3231件に登っている。

## 3. 健やか親子21ホームページの利用状況

図5にトップページへのアクセス数の推移を示した。ホームページ運営開始の2001年5月からの推移を見ると、累計アクセス数は、右上がりの傾向であった。月別のアクセス数では、2002年度は凸型、2003年度は凹型を示していた。2004年1月以降でやや上昇傾向が認められ、ホームページのリニューアルが何らかの影響を与えていることが推測できる。

図6は主要コンテンツへのアクセス数の推移を示した。これを見ると、ホームページリニューアル後の2004年1月以降で、「取り組みトップ（現地方計画）」以外の全てのコンテンツにおいて、アクセス数の上昇がみられた（取り組みトップとは、リニューアル前の取り組みのデータベースと取り組み状況一現地域計画一を置いたページの総称）。これは、トップページから行けるコンテンツ数が20個から12個へとまとめられたため、利用者にとってメインのコンテンツが、よりわかりやすくなったためと思われる。

ホームページのリニューアルによって、実際に第一階層となるメインコンテンツへの平均アクセ



ス数の増加傾向を知るために、図7に、第一階層にあるコンテンツ一つあたりへの平均アクセス数の推移を示した。この中では他機関にリンクしているためアクセス数が把握できないもの、更新履歴や作成中のページといった継続的に利用される見込みがないものは除き、リニューアル前は15個、リニューアル後は9個のコンテンツを母数として、コンテンツ一つあたりの平均アクセス数を算出した。リニューアル前はコンテンツ一つあたり、月700件前後のアクセス数であったが、リニューアル後はコンテンツ一つあたり月1000件以上となっており、リニューアル後に、明らかにコンテンツ一つあたりへのアクセス数が多くなっていることがわかった。

図8には、リニューアル前後の主なコンテンツへのアクセス推移を示した。ここではリニューアルした2003年12月末を軸として、前後の2か月間の合計アクセス数で比較した。リニューアル以降に利用度が高いコンテンツは、母子保健・医療情報データベース（4665件）、健やか親子21について（4042件）、取り組みの目標値（2378件）、イベントと研修会情報（1958件）の順であった。リニューアル前には、これに取り組みトップが入ってきていたが、コンテンツ再編成のため、見かけ上、減少しているだけである。実際には、旧取り組みトップに値するアクセス数は、現地方計画と、新取り組みのデータベースの両方へのアクセス数を足した2875件となり、上位に入ってくるため、これも、やはりニーズの高いコンテンツの一つと言える。今後はこの地方計画と取り組みのデータベースが、独立したコンテンツとしてどのように利用者のニーズを現わす事となるか、注目したい。

リニューアル前後を比較すると、前述した取り組みトップ以外は、どのコンテンツにおいても、アクセス数が増加していた。特に健やか親子21について、取り組みの目標値、イベントと研修会情報についてその傾向が顕著であった。また、学校保健・e-サポートについては、現在作成中であり、工事中の状態となっているにも関わらず、それぞれ月平均約500件・300件のアクセスが認められた。これは、各コンテンツについて出来上がっているかどうかチェックをしている利用者がいるということであり、新しいコンテンツへのニーズが高いことが推測できる。今後、これらのコンテンツ公開後のアクセス数に着目していきたい。

図9から11には、独自のコンテンツへのアクセス数を示した。ホームページで、最もアクセス数の多い母子保健・医療情報データベースについては、常に一定のアクセス数が認められており、ホームページのリニューアル公開後に若干の増加傾向が認められた。このデータベースそのものに直にリンクして、継続的に使っている固定の利用者も多いと考えられるため、リニューアルの影響は若干の増加に留まっているものと考えられる。

図10に示した取り組みのデータベース及び地方計画へのアクセス数では、取り組みのデータベースをリニューアル公開した10月に、両方のコンテンツの入り口となっている旧取り組みのトップページに大きな増加が見られた。

その後、取り組みトップへのアクセス数は減少するが、データベースへのアクセス数は10月に上昇したまま、横ばいの状態でアクセス数が保たれていた。これは、リニューアルした取り組みのデータベースが量質ともに充実され、より使いやすいツールとして受け入れられるようになったため、直にリンクして使う人が多くなったためと考えられる。

ホームページリニューアル後の累計では、旧取り組みトップと比較すると、若干増加し、減少傾向にあったアクセス数に歯止めがかかったように見える。特に、地方計画については、今年度計画を作成している地域が多く、これまでにあまり充実されてきていないコンテンツと言える。これに関しては、この3月中に充実を図る予定であり、それに伴うアクセス数の動向に注目したい。

図11には取り組みの目標値について、健やか親子21の4つの課題別のアクセス数を示した。リニューアル後の2004年1月以降に、若干の増加傾向が認められた。課題Iが、取り組みの目標値の入り口となっているため、他の課題よりも圧倒的に多いアクセス数となっている。

健やか親子21のホームページには、xlsファイルやPDFファイル等、利用者が自身のパソコンに保存して活用できるファイルが多数置いてある。現在のファイル数は、xlsファイルは56個、PDFファイルは157個に登る。これらのコンテンツはより下位階層に置いてあるため、これらの利用状況を知ることが、下位階層までの利用状況を把握する一つの目安に出来ると思われる。

図12にxlsファイル及びPDFファイルのダウン

ロード数の推移を示した。どちらも2003年7月までは右上がりに増え、以降はほぼ横ばいの傾向であった。xlsファイルのダウンロード数では2月に大幅な増加が認められていた。これは1月に図表や一覧の活用例を掲載したことの影響とも考えられ、今後のアクセス数に注目していきたい。PDFファイルについては、横ばい傾向が保たれており、今後の傾向を確認した上で、減少傾向に進むようであれば、これらを掲載する下位階層の構成について、再度見直す必要があると考えられる。

図13に取り組みの目標値に置いたxlsファイルのこれまでの累計ダウンロード数の多いコンテンツを示した。これまでのダウンロード数は累計で3万件を越えていた。

ダウンロード数が多い図表は、十代の自殺率、妊娠中の飲酒率、十代の人工妊娠中絶実施率、妊娠11週以下での妊娠の届出率の順であった。またリニューアル後の2か月間の累計では、目標値一覧(292件)、3-8:妊娠中の飲酒率(198件)、1-3:十代の性感染症罹患率(149件)、目標値一覧の活用例(145件)、図表の活用例(134件)の順に多く、リニューアル時に、利用者のニーズを見込んで作成した、目標値一覧・一覧の活用例・図表の活用例のいずれも、上位5位に含まれ、多く利用されていることが伺えた。

図14はPDFファイルのダウンロード数が多い資料を示した。PDFのダウンロード数は累計で51万件を越えている。圧倒的に子どもの心の健康問題ハンドブックのダウンロード数が多かった。また、これに次いで、子ども虐待予防のための保健師活動マニュアル、秋田市・旭川市・相馬村の地方計画のダウンロード数が多かった。リニューアル後の2か月間だけの累計で見ると、子どもの心の健康問題ハンドブック(4205件)、健やか親子21リーフレット(3496件)、健やか親子21とは(2200件)、地方計画:旭川市(1688件)、子ども虐待予防のための保健師活動マニュアル(1660件)の順に多かった。この中に、リニューアル時に利用者のニーズを見込んで作成した、健やか親子21とは、が含まれており、利用者のニーズが確認できた。ホームページ上で、これらのファイルを提示することへのニーズが非常に高いことが示唆された。

表3に2003年度に健やか親子21ホームページに寄せられた質問や意見を示した。従来通り、リン

クの依頼や、イベント開催案内等の情報が多く寄せられた。また、今年度から母子保健担当者同士の情報交換を目的としたメーリングリストを運営しており、この申込も多かった。2003年度は計59件の情報がホームページに対して寄せられ、必要に応じて管理者又は主任研究者が対応した。

#### IV. まとめ

2003年度の健やか親子21公式ホームページの展開について、2003年12月末のホームページリニューアルを中心に報告した。リニューアルのコンセプトは、①コンテンツの構造の単純化、②印刷用ファイルの追加、③活用例の提示、④新コンテンツの追加、⑤取り組みのデータベースのリニューアル公開等であり、より使いやすいホームページを目指した。

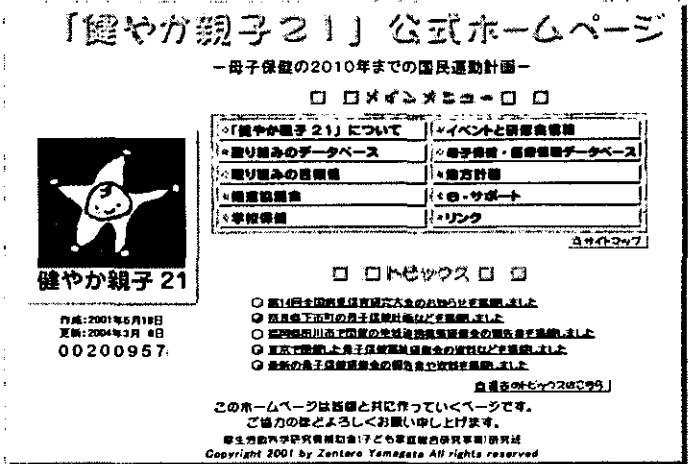
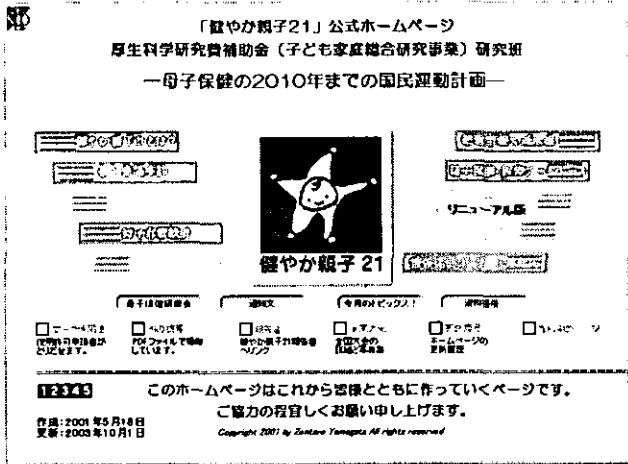
特に、取り組みのデータベースは、データの量質及びシステムの使いやすさ等の見直しが行われ、実際に利用する人々が情報を提供し、また活用していくという新たなデータベースシステムが確立された。また、研究班が独自に作成したコンテンツである母子保健・医療情報データベースでは、約400件のデータが追加された。他にも随時各コンテンツの内容の充実化が図られており、主な更新だけで61回を数えた。

ホームページのトップページへのアクセス数は、2003年は凹型であったが、第一階層のコンテンツを見ると、ホームページのリニューアルをきっかけに、ほぼ全てのコンテンツにおいて増加傾向が示された。リニューアル後に、利用度の高いコンテンツは、母子保健・医療情報データベース、健やか親子21について、取り組みのデータベースと地方計画、取り組みの目標値、イベントと研修会情報の順であった。また、より下位の階層に位置するxlsファイルやPDFファイルのダウンロード数も、ほぼ横ばいの状態が保たれており、継続的な利用者のニーズが確認された。

以上より、ホームページリニューアルをきっかけとして、より活発にホームページが利用されてきていることが示された。尚、これは、ホームページのリニューアル公開から2か月時点での報告であり、この3月に全国の母子保健担当者への周知をはかることや、新しいコンテンツも開かれること等大きなイベントを控えているため、今後の展開に注目して行きたい。

旧ホームページの主な構成

新ホームページの主な構成



トップページ

1. 今月のトピックス (最新情報へのリンク)
2. 最新情報&掲示板
  - 2-1 イベント&研修会案内
3. 母子保健研修会
4. 情報提供コーナー・連絡先
5. 健やか親子21とは
6. 検討会議事録
7. マーク使用法
8. 通知文
9. 報告書 (リンク)
10. 全国大会
11. 班の概要
12. 取り組みの目標
13. 母子保健統計 (リンク)
14. 資料提供
15. 母子保健・医療情報データベース
16. 取り組みのデータベース
  - 16-1. 取り組み状況
  - 16-2. 取り組みのデータベース
17. 推進協議会
18. 関連リンクページ
19. 更新履歴
20. 作成中のページ

トップページ (トピックス)

1. イベントと研修会情報
  - 1-1. 母子保健研修会
  - 1-2. 情報提供
2. 「健やか親子21」について
  - 2-1. 健やか親子21とは
  - 2-2. 検討会議事録
  - 2-3. マーク使用法
  - 2-4. 通知文
  - 2-5. 報告書
  - 2-6. 全国大会
  - 2-7. 班の概要
3. 取り組みの目標値
  - 3-1. 取り組みの目標
    - 3-1-1. 資料提供
    - 3-2. 母子保健統計
4. 母子保健・医療情報データベース
5. 地方計画
6. 取り組みのデータベース
7. 推進協議会
8. リンク
9. 更新履歴
10. e-サポート (2004年3月公開予定)
11. 学校保健 (2004年3月公開予定)
12. サイトマップ

図1 新旧コンテンツ対応表

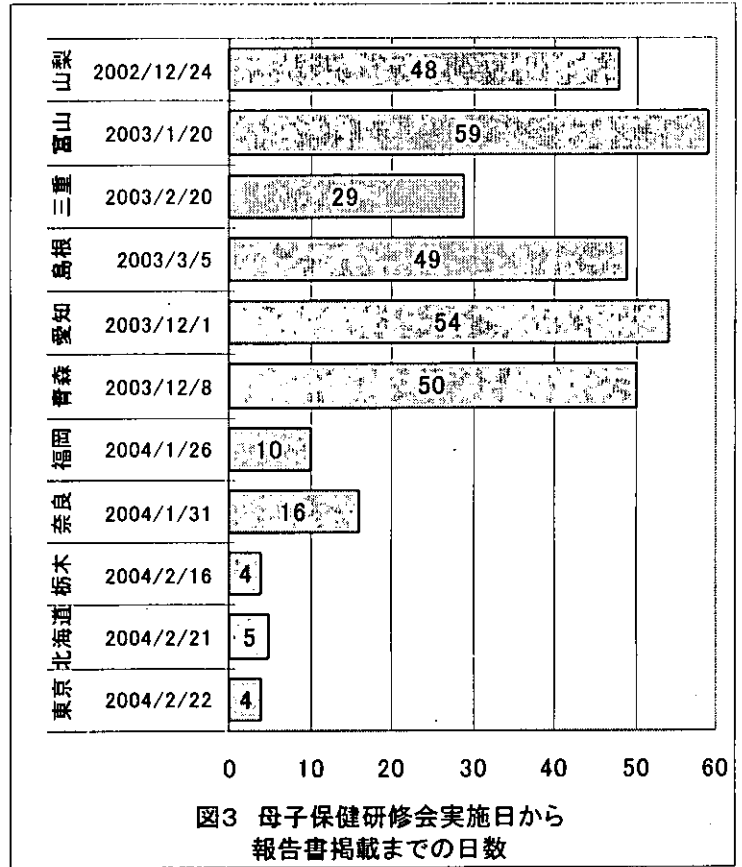
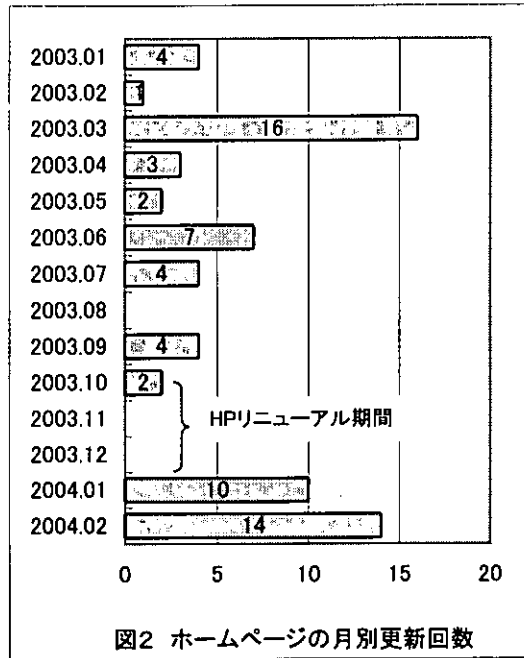


表1 月別・コンテンツ別、更新回数

	2003年										2004年		計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月		
母子保健研修会	1	1	1	1							5	8	17
イベント	1		3		1	1	1	1				6	14
取り組みの目標			3		1	1	1	1			1		8
健やか親子21について	1		4								2		7
推進協議会			3			2		1		1			7
地方計画				1		2	1	1			1		6
通知文	1		2										3
リンク				1			1						2
取り組みのデータベース						1			1				2
計	4	1	16	3	2	7	4	4	1	10	14	66	

表2 独自コンテンツの運営概況

	2003年2月末	2004年2月末	2003年度の主な変更点
取り組みの目標	50図表	50図表	取り組みの目標値一覧をxls・PDFファイルでダウンロード出来るようにした。さらに、一覧や図表の活用例を提示した。
取り組みのデータベース	2713件	2969件	データベースの内容やシステム(使いやすさ)の見直しを行い、厚生労働省の通達により、新た全国から集めたデータを、2003年10月からリニューアル公開した。各地域の方々によるデータの追加・更新件数は、5か月間で、766件に登る。
地方計画(旧 取り組み状況)	27地域	31地域 (PDF27件、 リンク4件)	各自治体の「健やか親子21」に関連する計画をPDFファイルまたは各自治体のホームページへのリンクとして紹介した。今年度計画を作成した地域が多く、2004年3月に大規模な充実を図る予定である。
母子保健・医療情報データベース	2831件 (リンク1131件)	3231件 (リンク1428件)	厚生労働科学研究費子ども家庭総合研究事業の報告書を中心に、400件のデータを追加した。